



わらべ

2025年8月30日

富岡保育園

「生きる力」を育てるには、安心感が必要

先日、「主体的に生きる力を育む乳幼児保育のあり方の再考」という演題で、「親と子どもの臨床支援センター代表理事」の帆足暁子先生の研修を受講して来ました。その内容の一部をご紹介します。

人は受け身で生まれてくる。人は自分の『生』を選ぶことができず、他から与えられるものである。この与えられた『生』を自分のものにしていくためには、出生後からの周囲とのやり取りの中で全面的に受け入れられるという体験が必要。つまり、お腹が空いたときに適温のミルクが与えられたり、オムツを替えてもらったり、不安な時に抱きしめられたりなど、自分はこの中で生きていていいんだという経験が必要なのである。1歳前後のイヤイヤ期から3歳の反抗期も含めて受け入れられることで子どもは自己を獲得し、その自身の有様を肯定していく。このような経験を重ねて、人との間で『この行為の、この感情の、この考えの主人公は私である』という実感を持ち、この私に責任がもてるようになることを、主体性の獲得という。

「生きる力」は、変化の激しい現代社会において、子どもが自立して生きていくために必要不可欠な能力である。確かな学力、豊かな人間性、健康、体力など、知・徳・体をバランスよく育てることが大切。

帆足先生は「近年、愛着関係が作られていても『生きる力』が育っていないと感じることがある。ボウルビイの愛着理論では『愛着関係ができれば、子どもは自分で動くようになる』と言っていたが、どうも日本は違うかも？なぜうまい具合に育たないのだろう？日本は、小学生の自殺が増えている、不登校の子どもが増えている。なぜだろう？

- ・子どもが、自分からSOSを出せない。
- ・問題が起きた時に解決できない、しようとしらない。主体性はどこへいった？

闇バイトに誘われる人は、指示したとおりにしか動けない。もし間違えたら？間違えたことへの責任も持てるかどうかの見通しもつけられない。

「死ぬとは思わなかった」なぜ気づかない？なぜ？？？

育児書はネットで見ている人がほとんどである。ネットは間違えた情報がほとんどで、中には悪意があるものもある。正解は4割しかない。

親は・泣かせちゃいけないと思っている。

- ・不安にさせちゃいけないと思っている。

- ・3歳になったらしつけを始めていいですか？という親もいる、ちなみに離乳食が始まったら、しつけ開始！！

生きている以上、不安なことは必ずある。その不安を自分で解決できる大人になることが大事なのである。

生きる力を育むには、基本的な安心感が必要である。「怖いことや困ったことが起きても安心できる人がいる」という確信。すなわち安心感。安心感が自分の心の中にあるからこそ、いろいろなことに興味を持ち、確かめてみようとしてチャレンジできる。

不安な気持ちでは「〇〇してみたい」「△△をやってみよう」といった気持ちは育たない。安心感が育っているからこそ行動が起こるので、「できた」という「達成感」も「やりたいと思ったらできる自分」という「自己肯定感」も育つことができる。達成感や自己肯定感を積み重ねることで「やってみたらできるはず」という気持ちをもてるからこそ、「諦めない心」が育つ。子どもが安心できる身近な大人との関係（愛着関係）の確立が、生きる力の育ちには必要不可欠である。安定した愛着関係を基盤として「生きる力」が育つ。



夏の遊び特集 「夏って 楽しい！！」

いす組(1歳児)

暑い毎日ですが、子どもたちは夏ならではの遊びを楽しんでいます。

泡遊びでは、手に泡が着くとお腹にもつけてお風呂みたいにして遊んだり、水に色がついていく不思議さなど大人の私たちよりも、目が釘付けになって楽しんでいました。

特に色付けした「春雨」を使った感触遊びはとても新鮮で、「ひゃ〜！」と声を上げ大喜び。つまんだり、麺に見立ててお椀やタッパーに入れてみたりと、子ども達は触りながらどんどん遊びをひろげていました。冷蔵庫から取り出したばかりの春雨に触れて、「冷たくて気持ちいい〜」と子どもたちから言葉が出てきそうでした。これからもまだ暑そうです、もう少し夏の遊びを楽しみたいと思います。



ウサギ組(2歳児)

今年の夏も暑い日が続いています。うさぎ組も夏だからこそ楽しめる、プール遊びに色水遊び、泡遊び、また思い切り楽しめる絵の具遊びなどで子ども達のかわいい笑顔をたくさん見ることができました。

プールでは昨年よりも大きくなった子ども達は、水を怖がることなく「見とって！」と泳ぐ姿を嬉しそうに見せてくれます。浮棒を使ってペットボトルで浮くいかだにも挑戦してみました。

絵の具遊びでは手足や体に絵の具が沢山ついて大喜びです。色が混ざる所をじっと観察する子もいれば、手に絵の具をつけて手形にする子、手で混ぜて豪快に紙に描く子、筆を使う子、色々な姿があり子ども達の自由な表現が面白かったです。手も足も絵の具だらけになり、最後は使った絵の具を洗うのも上手でした。暑い日まだまだ続きそうなので、もう少しの間、水遊びなどを楽しみたいです。





年中・年長児(4・5歳児)

早いもので、年中さん・年長さんになって5か月が過ぎようとしています。子どもたちにとっては今年の夏もサッカー教室、プールあそび、スイミング、セミ取り、夏祭り、水遊び(色みずあそび、せっけんスライダー、しゃぼん玉、ジュースやさんごっこ等)など様々な遊びを通して貴重な体験ができたと思います。

8月5日に志岐小学校の先生方が保育参観に来られました。その際、子どもたちの運動遊びを見られ「子どもたちの運動量がすごい。よく体が動きますね。あれだけ走ってぶつからないのもすごいと思います。そして、したくないという子がいませんね」と驚かれていました。また、運動遊びの後踊ったり、歌を歌ったり、トランプの7並べを参観され「アクティビティーに富んでいるなあと感心しました」とおっしゃって下さいました。

7月後半から8月にかけては酷暑の為、ホールでの運動遊びも制限し、プール遊び、水遊びを満喫しましたが、これから運動会に向けて子どもたちのやる気に火をつけられるよう一人ひとりの子どものペースに合わせて環境を考えていきたいと思っています。「夢中になって遊んだとき、何度も何度も挑戦して達成したとき、その後繰り返してその満足感を味わっているとき、夢中になる子どもたちの手のひらには『がんばりまめ』がうまれます。子どもたちは、いやなことやつまらないことは決して繰り返して遊びません『がんばりまめ』が育ったとき、子どもたちの心と体は、逞しく成長しています」の言葉を忘れないようにしたいものです。

富岡児童クラブ

長い夏休みもとうとう終わりました。今年も酷暑の為、室内での活動が多かったです。ペットボトルピザ、バニラアイスクリーム、ウインナー巻きパン、かぼちゃドーナツ、桑の実アイスなどたくさんのおやつを作りました。自分たちで作って食べるだけでなく保育園児の分まで作り「学童さんおいしかったです。ありがとうございました。」とお礼を言ってもらえてとても喜んでいました。苓北町食改さんたちのご協力で、自分でお弁当も作りました。包丁や火を使うときにもそばには食改の皆さん方の温かい見守りがありました。

中でも一番燃えたのがけん玉です。はじめはプラスチックけん玉でも連続して乗せるのは難しかったのですが、あきらめない心で毎日少しずつ継続するうちに自分の記録をどんどん更新していきました。「先生数えて」「歌って」「みとって」があらからもちから聞こえてきました。貴臣君は最高600回まで続けました。すごいことです。

もちろん、ドリルや漢字ノートなど学校からの宿題だけでなくマス計算・学年ごとの音読・学童のプリント類等学習面でもよく頑張りました。そして、子どもたちの健康維持に一番貢献したのが給食です。毎日お代わりもいっぱいして暑い夏を乗り切ることができました。

毎年夏の一大イベント夏祭りも夏休みに入っすぐにお店屋さんごとにいろいろと準備してきました。保育園児さんたちも先生方ももちろん自分たちも十分楽しんでいました。

夏休みの様々な活動が子どもたちの生きる力の基礎につながれば幸いです。色んな方々のご協力で安全に楽しく夏休みが過ごせたことに感謝したいと思います。



9・10月主な行事予定

9月9日・16日(火) まどか先生リトミック・音楽指導

9月17日(水) 沖吉恵江先生童謡教室

9月22日(月) 岡田先生運動遊び教室

9月25日(木) 誕生会

10月

10月5日(日) 富岡地区町民体育大会 年中・年長児パンくい競争

10月10日(金) 運動会前準備夕方役員様方よろしくお願いします。

10月11日(土) ふれあい運動会 富岡小学校体育館

10月16日(木) 富岡地区敬老会 年中・年長児 富岡公民館

10月26日(日) 苓北町お城まつり 年中・年長女児出演

10月30日(木) サッカー教室 年中・年長児

